

平成 31 年度 第 28 回入学式 上原明理事長祝辞

新入生の皆さま、学生さん、大学院の皆さん、博士課程、そしてシニアプログラムを受けられる皆さん、ご入学おめでとうございます。またその皆さま方をこれまでお育てし、支えてこられたご両親さまそして関係各位の皆さま方は、さぞお喜びと同時に大きな期待を持って本日を迎えられることと思います。またご来賓の皆さま方、地域の方々、そして関係各位の方々、大変日頃からあつく、暖かく、城西国際大学を見守っていただき、学生の育つのご支援いただいていることに対しまして、心から御礼申し上げます。

さて、どのようなお祝いの言葉を申し述べようか考えました。私は会社の経営も担っておりますが、実は昨日新入社員の諸君を迎えまして、社長講話ということで 90 分間、お話をいたしました。しかし今日はそんな時間もございません。その要点だけ、しかし時代を背負う同じ若者、そしてその第一歩を歩む新入社員の皆さまにお話ししたことと同じようなことを、皆さま方にもお話ししたいと思います。昨日、新元号、5 月 1 日からの「令和」という元号が発表になりましたが、まさに今、新しい時代を迎えようとしているその時期に皆さま方がお入りになったということは何かのご縁ではないかなと思います。皆様方には新しい時代へ向かっての第一歩をしっかりと記すための準備をしていただきたいと思います。と思っています。

私は常々、会社の経営に当たりまして、年に 2~3 度その時代の流れを分析したうえで何が大切かということを考え、社員諸君に話をしております。私が日頃から座右の銘といたしておりますのは、「着眼大局、着手小局」という言葉であり、この言葉は紀元前 4 世紀から 3 世紀頃の中国の思想家・荀子の言葉といわれております。すなわち時代の変化、時代の流れを見極めることが大切であり、その時代に逆らうようなことをしては何事も大成しない。その時代の流れの中に良い意味で乗りながら、自分が目指す方向に一歩ずつ歩みを進め、自分で努力していくという言葉だと解釈いたしております。そのような観点から今の大きな時代の流れとはどのようなことかを考えています。

現在の時代の流れを分析してみますと、大きく分けて二つの特徴があると思います。先ずは最近における技術の進歩、その技術も情報、さらには交通、物流、科学、医学等の大変な技術進歩と、それから世界中にお金が有り余って、投資がグローバルに展開してきたことだと思います。

それによって何が起こったかといいますと、一つには国と国との間の格差が少なくなってきた。その少なくなってきた理由というのは新興国が豊かになり、大きな社会的な進歩を遂げてきた結果であると思います。

2 番目には生活者が決定権を握ってきた。なぜならば、情報をいち早く手に入れることが

出来るし、自分は世界中に飛んでいけるし、物を取り寄せることができる。そういった意味で、生活者主権・主体の社会になってきたということです。

3番目にはその恩恵を受けて、高齢長寿社会になってきており、その結果、社会保障費がどんどん増大し、日本で言うと今年の国の予算 100兆円の 33%、3分の1がこの社会保障である年金、医療、介護に重点的にお金が使われるようになってきたということが現代社会の特徴だと思っております。

もう一つの特徴として、このような現在の時代の流れの中で今何が期待されるかということ、従来の技術でつくられる従来の商品はもう世界中に普及しており手詰まり感が生じているということです。新しい技術による商品の新しい市場をつくることにより、経済発展と社会問題を同時に解決することが望まれているのであります。期待されている新しい社会は第4次産業革命とか Society 5.0 等色々表現されています。例えば自動車産業では、自動車を使った Uber というタクシーをいかに呼びよせるかとか、あるいはカーシェアリング、即ち自分が車を所有するのではなく、お金をかけずに自動車を持つ楽しみを皆で共有して暮らしていくかというように生活者の考えが変化してきた結果、自動車産業もそれらの生活者の変化の方向を視野に入れなければ産業として成り立たなくなってきました。銀行業も現金を使うことがより少なくなる時代になり、ATM と資産運用が中心の産業になってきた時代であります。

Society 5.0 は日本の経団連とか内閣府が唱えている未来社会です。どういう時代かということ、Society というのを社会と訳しますと、第1の時代は狩猟時代、第2の時代は農業時代、第3は工業時代、第4の時代は情報の時代、第5がこれから迎える未来社会の時代、Society 5.0 という意味なのです。その Society 5.0 とはモノとソフトの融合、即ちモノをどう使うかという創意工夫により、社会の諸問題を解決し且つ経済発展を担っていく未来社会というのが Society 5.0。従来のモノだけでは生きていけないということでもあります。

従って現在の大会社に入って、そこで一生飯を食っていけるというような時代は終わったのであります。これからは、既存の産業は従来のビジネスモデルだけでは生きていけなくなり、ビジネスモデルを変更するか、あるいはそれを進化させなければ生き残れない時代になりつつあると考えています。

それでは、そういった中で新入生の皆さま方はどのような生き方をしていけばよろしいのでしょうか。城西国際大学に入って何をして、そのような社会に飛び込む準備を如何にすべきかということ、それが皆さま方から見る「着手小局」ということでもあります。

第一に皆さま方をお願いしたいのは「生涯学習」、一生学び続ける覚悟をするということです。学ぶというのは何も勉強するとか、PC を、電卓をたたくということだけではなくて、頭を自由自在に四方八方に働かせて学ぶ、吸収する、考えるということです。今までの20年近い学生生活では、情報あるいは知識を吸収することが1つ、体を鍛えるということ

がその第2、第3は情操を豊かにするということで成り立っていたと思います。

しかし今まで習ってきた知識、情報というものは、社会の求めるものが刻々と変わっていくわけです。生活環境が変わる、事業環境が変わる、社会のニーズが変わることに対応して、いつも勉強していくという覚悟をまずしっかりと持つということが重要であります。

もう一つ、大学に入って非常に重要なことは、学びの基本を身に付けるということであり、学問だけではなくて、スポーツからでも同じように身に付けることができます。例えば、野球で上手くなることを志す場合、自分より優れたピッチャーとか、あるいは打者がいたら、彼はどうやってそれができるのだろうか、身体の鍛え方とか、投げ方とかを比較研究したり、理論を優れた先生、コーチに付いて、基本的な研究や工夫をする。中国の荀子という先生が同じことを言っているらしい。「生涯学習」の基本で一番重要なことは良い先生に付いて基本をしっかり身に付け、それを持って世の中に出て生涯学び続けることだと。

2番目に、生涯学習の覚悟を決めることの次にお話したいのは、「学ぶということはどういうことか」であります。教育という言葉は教わる立場から言うと、自らが教わり・自分で育つということでもあります。今まで得た知識や情報だけではなく、周りから更に情報を集めて、そしてそれを土台に考えて、それを行動に移すということ。これが、これから大学に入り、世の中に出て、やっていただきたい「学ぶ」ということの基本の考え方です。そこで非常に重要なことは絶えず「なぜだ」、「どうしたらもっと効率的になるか」というような好奇心や疑問を持つということだと思います。学校でも社会に出ても、教えてもらっていないからできませんではなくて、これからは自分が解らないことやもっと効率良くできないかといった好奇心や疑問を持つことが大切です。絶えずなぜかという疑問を持ち続けることが情報を集めようとする「心の磁石」になります。それに応えるものが耳に入ってくる、目にする、それが情報になると思っています。日常の仕事でも問題意識や課題意識がなければ、改良、改善、改革は生まれません。企業の中でもそうです。絶えずなぜか、もっと良くなれないか、こういう疑問を持ち続けること。これを2番目に、皆さんはぜひ心掛けてほしいと思います。

3番目には、では「誰から学べばいいのか」。これは皆さんが心のアンテナを幅広く、高く、そして深く持ち続け、周りから入ってくるものを吸収することだと思います。まずは先人から学ぶこと。ギリシャ時代、ローマ、中世の時代からいろいろと試みた結果を先人たちが本に書き残してくれています。昔はその本を一冊ずつ読まなければ身に付かなかったのが、今ではスマホをたたけばウィキペディアでそのエッセンスが出ています。それらを先人から学ぶということ。次には他人から学ぶということ。今、地球上には75億人の人がいます。自分というものは75億分の1ですよ。どうして自分一人が考えることや自分の経験だけが絶対だと言えますか。民族が違い、宗教が違い、文化が違い、習慣が異なる人の意見を聞く、それによって自分の世界の情報は広まります。しかしその上に最も重要なことは自分自身から学ぶということです。先ほどを申し上げました課題を解く、問題を解くためには、人から、先人から学んだ情報を使って、その課題を解くことを自分で考え、仮説を立てて実

行して、そして検証して、その結果から学ぶことです。結果が成功した、失敗したではありません。そのプロセスから自分が何を吸収できるか、学べるかということが重要であります。そういった意味で学ぶということをしっかりと励行し、そして皆さんの大きな成長につなげてほしいと思っております。

4番目に、私自身が世の中に出て、会社生活の中で心掛けてきたことをお話ししたいと思います。「明日の自分というものは、今日自分が何を考え、どんな行動をとるかの結果である」ということです。自分の人生は自己責任である。人から教えてもらっていないといったことではない。自分が何を欲し、どういう行動をし、どういう結果から学んでいくかということではないかと思っております。

又、私自身は人生20年一節というふうに考えています。今、皆さんは20歳近くでいらっしゃいますが、今までの20年間は学び続けた20年間。そしてこれからの20年間は自分で考えて実行してみて、実社会から自分で勉強する20年間。40才にもなれば、社会にどんな仕事があるか、何をやりたいかと分かってくると思います。そうしたら40才から60才までは本当にやりたいこと、一生に一度しかないこの人生を、自分を懸けてやることに転向することをお勧めします。そして60才になれば左うちわで年金生活はいけません。誰のおかげで、それまでの自分の人生は豊かに過ごせたのか？お世話になった方々は皆さん、退職されているか或いは既に亡くなられているでしょう。ということは60才からの20年間は社会に対しての恩返し。自分が学んできたことを次の世代の人に継承する期間。そして80才になったら、自分の健康と相談しながらいろいろと、さらに世の中に役立つことをされるべきではないかと思っております。私は今週の金曜日に78歳になります。あと2年間で第4の人生の節を通過します。その後、どうしようかと考えていますが、さらに身体が続く限りはお役に立つことを一生懸命やりたいと思っております。

私が若いときに読んだ本の中で、アメリカの成功者に3つの共通点があるということに触れた本がありました。アメリカの政治家、ビジネス界、アカデミア、そしてさらにスポーツ界、芸能界等の成功者の共通点を3つ。

1つは、まずは積極的である。何事もやってみなきゃ分からない。

2番目には前向き発想である。やった結果が失敗したということじゃなくて、何を学んだか、何が分かったかということ。

第3には目標を設定するけれども、単なる大金持ちになりたい、社長になりたいといった漠然とした目標だけではなく、それに到達するための中間目標を設定していく。ある日突然エベレストの頂上に登りたいではなく、今がベースキャンプだったら、登頂への登山路を設計し、1次キャンプ、2次キャンプ、3次キャンプをつくるでしょう。その中間目標を立てて、それに到達するためには3年後、1年後、あるいは1カ月後、1週間。毎日どういうことを積み重ねて、登っていくかということが大切です。

要するに積極的であるということ、前向き発想であるということ、そして3番目には中間目標を立てて、それに対する毎日の自分の努力を積み重ねていくこと。この3つだということ

とを聞いております。非常に示唆に富んだ教えだと思いました。

最後に、先ほど学長も告辞の中で引用された創立者の水田三喜男先生の言葉を私も繰り返したいと思います。良い社会というものは、立派な人間がこれを造らなければできないものではない。今、新しい社会・Society 5.0 が待ち望まれているわけです。そのためには立派な人格の立派な人間をどのようにしてつくることができるか。学問を通じて、スポーツを通じて、それこそ苦悶（くもん）苦闘して、努力した人間の、その成長過程で人格というものはできるのだ。こういうことを言っておられます。

またもう1つ。これは福沢諭吉先生が言っておられたことでありますが、「我より古（いにしえ）を為（な）す」。自分が人類の中で初めて歴史をつくるのだ。こういう気構えが重要だということをおられます。日本の歴史を振り返ってみますと、明治維新、そして第2の太平洋戦争の廃虚から立ち直ったことに継いでこれからは Society 5.0、新しい人類の社会、日本の社会をつくる、こういうタイミングだと思っております。どうか新入生の皆さんが大きな希望を持って、自分を磨かれること。そして明日の自分というのは、今日何を考え、どんな行動をするかの結果である、自己責任だということを心に訴えて、努力をし、そしてこの大学において豊かな人生の第一歩を踏み出されることを心から念じて、私のお祝いの言葉といたします。本当におめでとうございました。

2019年4月2日

学校法人城西大学 理事長 上原 明